

環境報告書 -52期-

Environmental Report



目次

目次 / 編集方針	1
会社概要 / 企業理念・スローガン	2
ご挨拶	3
事業概要	4
特集	5
環境マネジメント	6
環境に関する経営方針	
環境マネジメント推進体制	7
I S O 1 4 0 0 1 認証取得状況	
5 2 期の活動内容	8
5 2 期の実績	9 , 1 0 , 1 1 , 1 2
社会とのかかわり	1 3
法令順守 / 環境負荷低減商品の開発 / 環境教育 / 安全衛生	1 4
今後の取り組み	1 5

【編集方針】

株式会社カナエの5 2 期環境報告書は、より多くの方々に弊社の環境保全活動の実態をご理解いただきたいという目的で作成いたしました。

報告書の対象となる事業所は、本社、東京支店、名古屋営業所、富山営業所の4 事業所と大宮、高倉、高殿、栃木、愛媛工場の5 工場です。

5 3 期の報告書は環境保全活動に加え、安全衛生についても若干ではありますが記述し、当社の活動を幅広く、ご紹介していきたいと考えています。

まだ十分な報告書とはいえませんが、今後さらに充実した報告書の発行を目指していく所存であります。

今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

【対象期間】

2 0 0 6 年 1 0 月 2 1 日 ~ 2 0 0 7 年 1 0 月 2 0 日

【報告書に関するお問合せ先】

株式会社カナエ 経営企画部

T E L : 06-6954-7151 F A X : 06-6954-7196

会社概要

- ・商号 株式会社 カナ工
- ・設立 昭和31年3月29日
- ・資本金 3億5,381万4,600円
- ・代表取締役社長 岡本邦昭
- ・従業員数 343名(平成19年7月現在)
- ・営業品目 包装資材・包装機械の開発販売、包装受託加工、受託製造

・本社、支店、営業所、工場所在地

本社	大阪市旭区高殿4丁目16番11号	TEL:06(6954)7151
東京支店	東京都中央区八丁堀4丁目11番5号	TEL:03(5566)4811
名古屋営業所	名古屋市北区田幡2丁目5-12	TEL:052(915)3371
富山営業所	富山市布瀬町南2丁目10番14	TEL:076(492)8708
流通センター	大阪市城東区今福西6丁目9番27号	TEL:06(6932)6231
大宮工場	大阪市旭区高殿4丁目15番12号	TEL:06(6954)7160
高殿工場	大阪市旭区高殿4丁目8番22号	TEL:06(6954)7160
高倉工場	大阪市都島区高倉町3丁目14番13号	TEL:06(6928)3171
栃木工場	栃木県真岡市寺内599-4	TEL:0285(80)1881
愛媛工場	愛媛県四国中央市川滝町下山2326番地の5	TEL:0896(59)4326

企業理念・スローガン

企業としてのあり方を示す「企業理念」、「スローガン」を制定しています。

企業理念

顧客第一主義に徹する。

健康と豊かな生活を創造し、社会に貢献する。

情報と知恵を活かし、顧客満足を創造する。

社員の人生の充実を重んじ、希望と誇りと働き甲斐のある企業にする。

地球環境保全をベースとした企業活動を行う。

企業の社会的責任を果たしていく。

スローガン

お客様に喜びと感動を感じていただける会社になる

ご挨拶

昨年のご挨拶で21世紀は環境の世紀であると申し上げましたが、今年はまさにそうなりそうな状況にあると感じます。

まず、昨年のノーベル平和賞は地球温暖化の現状を広く、世界に訴える活動を行った前アメリカ副大統領アルゴア氏と地球温暖化を防止するための必要な処置基盤を築く努力を行ったIPCC（気象変動に関する政府間パネル）が受賞しました。また、最近のテレビ、新聞報道は環境に関することを扱うケースが非常に多くなってきたと感じます。

今、まさに全人類が英知を発揮し、地球環境を守るための行動を起こさなければならない時であり、国、行政、企業、そして個人、全ての人が「今」行動する時だと考えます。

京都議定書約束期間が開始されたこの機会を捉えて、改めて、地球温暖化防止の緊急性と企業が果たすべき役割を再認識し、当社もその一員として、今まで以上に環境負荷低減に努力していく必要性を痛感しています。包装を生業とする当社にとっての一番の課題は包装廃棄物をいかに削減していくかです。同時に、今後は社員全員の知恵を生かし、もっと幅広い活動を実施していく必要があり、会社だけでなく、社員の家庭も一体となった活動を実施していくのもその一つの方策であろうと考えています。

企業の社会的責任が広く問われる時代となっています。当社もかけがえのない地球号の一員として社会的責任を果たしていく所存です。

なお、本環境報告書で社内外の方々に弊社の環境保全活動の現状と今後の取組みの姿勢をご理解いただければ幸いと存じます。



岡本 邦昭
代表取締役社長

事業概要

(1) 包装材料販売

トータルな視点が生む独自のパッケージング対応

医薬品をはじめ、カナエの多様な事業分野におけるお客様のニーズは多岐にわたります。

カナエはそのさまざまなニーズに対し、包装内容物に最適な包装材料の設計から、機能形態、衛生安全性、さらには生産システム適性までの包装の全プロセスをトータルな視点でとらえ、ユーザーの意向を確実に解決する確かなパッケージング対応を行っています。

国内約500社の各種メーカー、コンバーターとのネットワークにより、ラミネートフィルムやPTP（プレスルーパッケージ）用各種シート、アルミ箔、化成品など、多彩な包装材料を安定供給。また開発部門を有し、国内外の最新情報と長年培った技術・ノウハウを駆使した新規包装材料・形態の企画提案でカナエ独自の付加価値を生み出しています。

さらに包装における機能や経時変化などの品質評価に関する各種データの収集・分析・評価のための専任スタッフと設備を整えると同時に、各素材メーカーとの連携による技術開発を推進し、開発・提案型企業としてのさらなる充実を追究しています。

人にやさしい包装材料及び形態の開発にも力を注いでいます。



(2) 包装加工

独自のノウハウを生かしたコントラクト業務

お客様から委託を受け、包装加工を行うコントラクト・パッケージ(受託包装)と、最終商品まで仕上げるコントラクト・マニファクチャリング(受託製造、OEM)。これらのコントラクト業務では、カナエの各種業態許可を得た技術力、品質管理力、生産能力が最大限に活用されています。

分野ごとに独立した包装加工工場を保有し、最新の設備と厳しい品質管理のもと、PTP包装、ストリップ包装、三方・四方シール包装、スティック包装、特殊包装など多種多様な形態の包装加工に対応しています。

アウトソーシングが進む医薬品業界のニーズにいち早く応えて、2000年には医薬品包装加工受託専門である栃木工場を新たに設け、さらに製剤からの一貫製造の受託にむけて、その環境整備と設備の充実にも取り組んでいます。コントラクト・マニファクチャリング(受託製造)では主に現在、医薬品液剤の製造を行っています。



(3) 包装機械販売

包装機械・システム構築からのアプローチ

各種包装材料の企画と販売、コントラクト業務による技術と経験を活かして、メーカーの枠にとらわれない「使用する立場、視点」からの提案を行えることがカナエの包装機械事業の大きな特長です。

まず、技術開発部において、フィルム特性資料、使用包装材料との適性、内容物の特性そしてコントラクト事業での経験・ノウハウを十分に検討、機械と包装材料に関する専門スタッフが参加して、システムの企画と設計を行います。

こうして医薬品分野をはじめ、さまざまな産業分野で、加工・包装工程を主体とした製造工程に最適なシステムを提案します。

有力包装機械メーカーの包装機械の販売とともに、独自に企画・設計した包装機の製作にも取り組み、システム・エンジニアリングにおけるトータルサポートを実現しています。

多品種少量生産に対応したフレキシブルな全自動プリスター包装機Mシリーズ、成形から充填、シール、打抜きまで自動で出来るインライン生産システム両面アルミ成形機DFS-280AL、医薬品包装に最適で、さまざまなラインに対応可能な次世代デジタル印刷機CSATなど、機械専門メーカーとは一線を画した独創的な包装システムは、総合包装企業カナエならではの強みです。



特集

この特集のコーナーでは今まで当社が力をいれて活動してきた事項のご紹介を致します。

環境負荷低減情報の提供

この活動は2003年に設置した組織横断的なプロジェクトである「環境包装プロジェクト」で編集した環境に関する情報（e情報）を当社のお得意先に提供する活動です。2004年から活動を開始し、52期で4年目を迎えました。

52期の情報提供件数は約3,700件で53期も5,000件を目標に活動を継続する予定です。

情報内容もお得意先からもお褒めの言葉や激励をいただくレベルまでに向上しました。

今後ともお得意先をはじめ、皆様にお役に立てる情報提供を行っていく所存です。

廃棄物排出量の削減

当社は包装材料販売、受託包装を本業としており、種々の包装廃棄物を削減していくことが社会的使命と考えています。

包装材料販売においてはいろいろな要因で発生する不適合包装材料の削減、また受託包装においては包装加工時に発生する包装材料ロスの削減をメインに取り組んできました。

具体的には前者においては「不良在庫削減」、後者は「包装資材収率の向上」という活動を実施してきました。

2つの活動とも未だ成果が上がらない状況ですが、53期も重要活動と位置づけ継続実施していきます。

将来ともこの活動を継続的に行い、廃棄物排出量を限りなく、ゼロに近づけていきたいと考えています。

環境マネジメント

環境に関する経営方針

当社の環境に対する考え方を著した文書として「環境方針」を記載します。

環境方針

< 環境理念 >

当社は、< 豊かな自然に恵まれた地球 >、その環境を永遠に保っていくことが我々人類の果たすべき使命であると自覚し、環境に配慮した製品造りを行い、良き社会の一員として地球環境の保全に努めます。

< 行動指針 >

- 1) 総合包装企業として包装資材、包装機械の開発販売並びに受託包装加工を事業としている当社は、地球の温暖化、廃棄物による地球の荒廃等の地球環境をとりまく諸問題を真摯に受け止め、当社の企業活動から生じるこうした環境汚染の発生を予防し、環境への影響を可能な限り減少させるための改善に努力します。

省エネルギーの推進

環境配慮製品の情報提供と開発

廃棄物の削減とリサイクル化の推進

業務効率化等プラス側面への取組み

グリーン購買、調達推進

上記事項の改善のため環境目的及び目標を設定し、その実現に向けた改善プログラムを設定し、その実現に向けた改善プログラムを策定、実施します。

そして定期的にその達成度を確認し、その見直しを図り、これにより環境保全のため継続的改善に努めます。

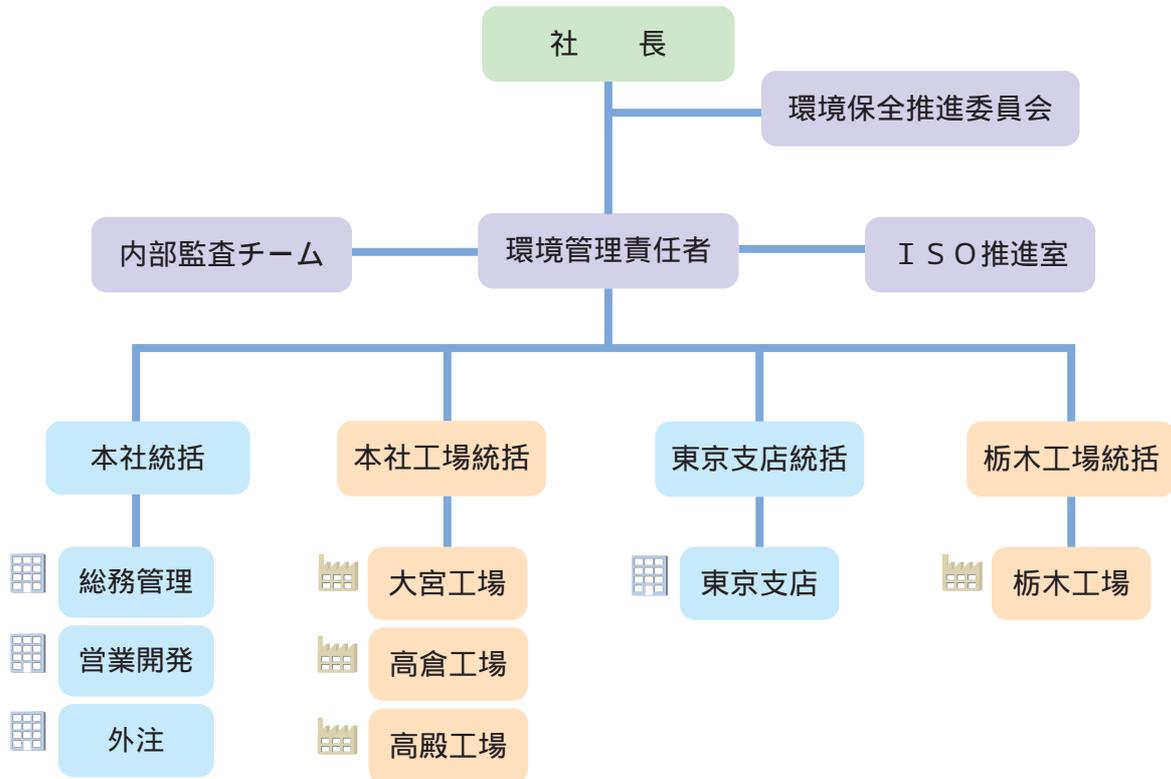
- 2) 当社は、事業活動に伴い適用されるあらゆる環境関連の法規制及び当社の同意した環境上のその他の要求事項を遵守します。
- 3) 当社は、この環境方針を全従業員又は当社のために働く全ての人に周知徹底させるために教育啓発活動を実施します。
- 4) 当社は、一般の人からの要求に応じこの環境方針を提供します。

環境マネジメント

環境マネジメント推進体制

環境保全推進組織

株式会社カナエは環境保全推進活動を実施する上でその推進母体となる「環境保全推進組織」を構築しています。



ISO14001 認証取得状況

当社がISO14001 認証取得を目指して活動を開始したのは2001年5月でした。

それ以降のISO14001の認証取得の経緯を次に紹介します。

年月	経緯
2002年3月	関東地区（東京支店、栃木工場）にて初めて認証取得
2003年3月	本社部門（関東地区を除く全部門）にて認証取得
2004年3月	関東地区と本社部門を統合し、株式会社カナエのEMSを構築
2006年3月	初めての更新審査を受審し、認証継続が承認される

環境マネジメント

5 2 期の活動内容

工場、オフィスの環境保全活動

株式会社カナエの工場、オフィスは5 2 期において下記の環境保全活動を実施しました。

工場



省エネの推進

1. 使用電力の削減



廃棄物排出量の削減とリサイクル

1. 廃棄物排出量の削減



プラス側面への取り組み

1. 規定に則った受入、
抜取検査の実施
2. 作業の合理化
3. 校正実施計画に基づく機器の
校正実施、管理



法規制の順守

1. 廃棄物の適正管理
2. 有害・危険廃棄物の適正廃棄
3. 火災防止管理
4. 廃棄家電の適正管理
5. 廃棄フロン含有製品の適正管理
6. 建築廃棄物の適正処理
7. コンプレッサー騒音の適正管理
8. 工場排水の水質適正管理
9. 汚水の水質適正管理
10. チリングユニット騒音の適正
管理
11. 冷却塔騒音の適正管理
12. 送風機騒音の適正管理

オフィス



省エネの推進

1. 使用電力の削減



廃棄物排出量の削減とリサイクル

1. コピー用紙使用量の削減
2. 不良在庫金額の削減
3. コンピューター用紙使用量の
削減



環境配慮製品の情報収集

1. 環境負荷低減情報の収集



プラス側面への取り組み

1. 適切なクレーム対応と社内、
製造委託先、調達先の
品質保証体制の向上
2. お取引先運送車への
アイドリングストップ要請
3. 環境方針の教育啓蒙
4. グリーン調達の推進
5. 環境保全への社員意識の向上
6. お取引先管理
7. 環境保全 P R 文書配布
8. 環境負荷低減情報の提供
9. 環境負荷低減商品情報の提案
10. 環境負荷低減商品の開発



法規制の順守

1. P C B の適正管理
2. 廃棄物の適正管理
3. 有害・危険廃棄物の適正廃棄
4. 火災防止管理
5. 廃棄家電の適正管理
6. 廃棄フロン含有製品の適正管理
7. 建築廃棄物の適正処理
8. A 重油供給時の漏洩防止管理
9. 特定容器包装の適正管理

5 2 期の実績

定期審査

5 2 期は5 1 期の更新審査を受けての定期審査を受審しました。

その結果、不適合事項はなく、改善の機会を1 1 点指摘されましたが、当社のEMSが引き続きISO14001規格に適合していると判定され、認証の継続が認められました。

環境保全推進委員会の開催

推進委員会の構成メンバーは環境管理責任者、統括責任者（4名）、ISO推進室室長、ISO推進室事務局の計7名です。5 2 期は2、4、7、9、10月に計5回開催しました。

主な議案は下記の通りです。

開催月	主議案
2月	<ul style="list-style-type: none">・ 5 2 期のISO活動推進組織と今後の推進組織のあり方について・ 5 2 期1月までの実績について・ 外部審査日程の確認・ 5 2 期表彰対象事項について
4月	<ul style="list-style-type: none">・ 外部審査結果報告と指摘事項への対応について・ 5 2 期3月までの実績について・ 法規制その他の要求事項順守の定期評価報告
7月	<ul style="list-style-type: none">・ 5 2 期5月までの実績について・ 5 3 期環境予算について・ 5 3 期ISO活動推進組織について・ 5 2 期第2回内部監査結果の報告・ 5 2 期ISO活動優秀部門表彰について・ ISO活動新中期3ヶ年計画について
9月	<ul style="list-style-type: none">・ 環境影響評価レビュー実施状況報告・ 5 3 期全社の目的・目標、実施計画案について・ 5 3 期ISO活動推進組織について・ 5 2 期ISO活動優秀部門表彰について
10月	<ul style="list-style-type: none">・ 5 3 期ISO推進活動に向けての準備状況報告・ 5 3 期全社の著しい環境側面について・ 5 3 期ISO活動推進組織について・ 5 2 期ISO活動優秀部門表彰について・ 法規制その他の要求事項順守の定期評価報告・ 5 2 期9月までの実績について

部門長会議の開催

5 2 期は内部コミュニケーションを充実させるため5 1 期に引き続き、各部門(本社、本社工場、東京支店、栃木工場)において月1回のペースで開催しました。

部門長、副部門長より活動実施に当たっての問題点、実績が上がっている事項についての有効な実施手段等の報告等がなされ、5 2 期も有意義な話し合いの場になりました。

部門会議の開催

部門長と部員のコミュニケーションを図る場となる部門会議も各部門、月1回のペースで開催しました。

コミュニケーションが十分に諮られている部門と不十分な部門との差が依然としてあり、今後、改善の余地を残す結果となりました。

5 2期の実績

主な活動の実績

1. 電力使用量（工場）

部門	単位	51期実績	52期実績	51期実績との比較	
大宮工場	kwh (絶対値)	90万	96万	前期使用量より7%増加	×
高倉工場		68万	76万	前期使用量より12%増加	×
栃木工場		298万	332万	前期使用量より11%増加	×
計		456万	504万	前期使用量より11%増加	×

工場における電力使用量は前期に比べ11%増加しました。
活動実施3工場で全て増加という結果になりました。

部門	単位	51期実績	52期実績	51期実績との比較	
大宮工場	kwh/百万円 (原単位)	979	862.8	前期原単位実績より12%削減	
高倉工場		801	1,043.5	前期原単位実績より30%増加	×
栃木工場		1,082	792.2	前期原単位実績より27%削減	
計		2,862	2,698.5	前期原単位実績より6%削減	

生産額100万円当たりの電力使用量は前期と比べ6%削減しました。
大宮、栃木工場は前期に比べ削減、高倉工場は増加という結果になりました。

2. 電力使用量（オフィス）

部門	単位	51期実績	52期実績	51期実績との比較	
本社	kwh (絶対値)	30,246	29,060	前期使用量より4%削減	
東京支店		5,398	5,301	前期使用量より4%削減	
流通センター		986	794	前期使用量より19%削減	
富山営業所		408	447	前期使用量より10%増加	×
計		37,038	35,602	前期使用量より4%削減	

オフィス部門における電力使用量は前期に比べ4%削減しました。
活動実施3部門で削減、1部門で増加という結果になりました。

水使用量

部門	単位	51期実績	52期実績	51期実績との比較	
大宮工場	m ³ (絶対値)	447	178	前期使用量より60%削減	
高倉工場		2,665	2,630	前期使用量より1%削減	
計		3,112	2,808	前期使用量より10%削減	

活動実績工場における水使用量は前期に比べ10%削減しました。
大宮工場は2期連続で大幅な使用量削減を実現しました。

部門	単位	51期実績	52期実績	51期実績との比較	
大宮工場	m ³ /百万円 (原単位)	0.61	0.16	前期原単位実績より74%削減	
高倉工場		3.18	3.57	前期原単位実績より12%増加	×
計		3.79	3.73	前期原単位実績より2%削減	

生産額100万円当たりの水使用量は前期と比べ2%削減しました。
大宮工場は前期に比べ、大幅な削減となりました。

5 2期の実績

廃棄物排出量

部門	単位	51期実績	52期実績	51期実績との比較	
大宮工場	k g (絶対値)	10,300	9,500	前期排出量より8%削減	
高倉工場		38,700	32,300	前期排出量より17%削減	
栃木工場		57,900	77,800	前期排出量より34%増加	×
計		106,900	119,600	前期排出量より12%増加	×

工場における廃棄物排出量は前期に比べ12%増加しました。

前期同様、栃木工場の排出量増加が全体としての増加要因となっています。

部門	単位	51期実績	52期実績	51期実績との比較	
大宮工場	k g百万円	10.8	7.7	前期原単位実績より29%削減	
高倉工場	(原単位)	46.1	41.0	前期原単位実績より11%削減	
栃木工場		18.7	19.0	前期原単位実績より2%増加	×
計		75.6	67.7	前期原単位実績より10%削減	

生産額100万円当たりの排出量は前期と比べ10%削減しました。

大宮、高倉工場は前期に比べ、削減しましたが、栃木工場は増加という結果となりました。

コピー用紙使用量

部門	単位	51期実績	52期実績	51期実績との比較	
本社	枚 (絶対値)	582,500	641,500	前期使用量より10%増加	×
製造事務所		128,500	100,000	前期使用量より22%削減	
流通センター		8,600	8,390	前期使用量より2%削減	
富山営業所		7,000	9,000	前期使用量より29%増加	×
計		726,600	758,890	前期使用量より4%増加	×

コピー用紙使用量は前期に比べ4%増加しました。前期、各部門で前々期比で削減となりましたが、今期は本社部門の増加に伴い、全体の使用数も増加という結果となりました。

不良在庫金額

部門	単位	51期実績	52期実績	51期実績との比較	
本社営業	万円	820	2,068	前期金額より152%増加	×
東京支店		1,121	519	前期金額より44%削減	
計		1,941	2,587	前期金額より33%増加	×

前期に比べ33%の増加となりました。51期は本社が削減、東京支店が増加という結果でしたが、52期は逆の結果となり全社としても増加という結果になってしまいました。

環境負荷低減情報提供数

部門	単位	51期実績	52期実績	51期実績との比較	
本社営業	件	2,208	2,274	前期提供件数より3%増加	
東京支店		1,942	1,500	前期提供件数より23%減少	×
計		4,150	3,774	前期提供件数より9%減少	×

前期に比べ9%減少となりました。

前期に基盤が確立したところですが、今期は横ばいの状況となりました。

5 2 期の実績

環境負荷低減商品開発数

部門	達成状況	目標達成成否
技術開発	目標 3 件に対し、3 件開発	

今期も前期に引き続き、目標達成しました。5 3 期以降は開発商品の販売拡販が新たな目標となってきます。

グリーン調達品目拡大数

部門	単位	51期実績	52期実績	51期実績との比較	
総務	品目	1 8	2 0	前期拡大数より 1 1 % 増加	
東京支店		-	7	-	-
計		-	2 7	-	-

本社は前期の調達拡大数に比べ 1 1 % の増加となり、目標も達成しました。
東京支店は 5 2 期より活動を開始しましたが、5 2 期は目標を達成しました。

社内報への啓蒙記事掲載

部門	達成状況	目標達成成否
総務	目標 6 回掲載に対し 6 回掲載	

今期も社内報発行時に全て啓蒙記事の掲載を行いました。5 1 期より連続掲載が継続しています。

機械稼働効率

部門	達成状況	目標達成成否	
大宮工場	A 機	目標達成率 9 9 %	×
	B 機	目標達成率 9 9 %	×
高倉工場	C 機	目標達成率 1 0 1 %	
栃木工場	D 機	目標に対する生産工数削減率 6 %	×
	E 機	目標に対する生産工数削減率 1 3 %	

今期は機械稼働効率の改善は良好な結果を得られませんでした。

資材収率

部門	達成状況	目標達成成否	
大宮工場	A 材	・ 目標達成率 1 0 5 %	
	B 材	・ 目標達成率 1 0 2 %	
	C 材	・ 目標達成率 1 0 7 %	
高倉工場	D 材	・ 目標達成率 9 8 %	×
栃木工場	E 材	・ 目標達成率 9 9 %	×
	F 材	・ 目標達成率 1 0 0 %	
	G 材	・ 目標達成率 1 0 0 %	
	H 材	・ 目標達成率 1 0 2 %	
	I 材	・ 目標達成率 9 9 %	×
	J 材	・ 目標達成率 1 0 1 %	

対象資材 1 0 品目のうち 7 品目で目標達成となりました。

社会とのかかわり

株式会社カナエは、環境保全の重要性を利害関係者に知ってもらうために教育・啓蒙等の活動を積極的に行っています。

2007日本国際包装機械展（JAPAN PACK）への出展

2007年10月16日から20日まで、東京ビックサイトにて開催されました2007 JAPAN PACKに出展致しました。

環境負荷低減商品を展示し、来場されたお客様に地球環境保全の重要性をPRしました。

環境負荷低減情報提供

2004年2月より毎月、環境に関する情報、環境負荷低減商品情報を冊子（e情報）にまとめ、お得意先に提供しています。

52期は提供件数、目標278件/月に対し314件/月の実績をあげることができました。

環境情報、特に環境包装に関する情報を社会に提供していくことは当社の使命の一つと考えています。

53期も引き続き、有用な情報提供を積極的に行う方針です。

お取引先、製造委託先への環境保全活動実施の啓蒙

52期も51期に引き続き、製造委託先に環境保全活動の重要性の啓蒙を製造委託課を中心に実施しました。

ここ3年、継続的に啓蒙活動を実施しており、製造委託先にも環境負荷低減必要性の意識が定着してきています。

また、本社、東京支店の仕入課ではお取引先に、同じく環境保全活動の重要性の啓蒙を実施しました。特に今年は当社のメインのお取引先の方にお伺いし、直接お会いさせていただき、啓蒙を行いました。

その結果、1社がISO14001の認証を取得されました。

まだ十分な成果は出ておりませんが、今後とも啓蒙活動を継続し、地球環境保全活動への積極的参加を求めています。

さらにお取引先、製造委託先の製品の品質レベルアップのために、51期に引き続き品質保証部も啓蒙教育活動を実施しました。

製品品質の向上は不良品の発生を防止し、廃棄物排出量の削減に寄与します。

そのため、この活動も来期以降、継続的に実施していきます。

お取引先運送車、配送委託先運送車への環境負荷低減の協力要請

流通センターではセンターに出入りするお取引先、配送委託先の運送車に環境負荷低減への協力要請を行いました。活動の内容としては「アイドリングストップ」の協力要請、「エコカー」の導入要請等です。

法令順守

法令の順守は企業が社会的に果たすべき最低限度の責務と考えています。
当社に適用される法令のみならず、関連の法令順守を常に心掛け、5 2 期も活動しました。
当社に適用される法令には

廃棄物関連で「廃棄物処理法」、「~~PCO~~廃棄物特別措置法」
リサイクル関連で「容器包装リサイクル法」、「家電リサイクル法」、「建築資材リサイクル法」
騒音、振動関連で「騒音規制法」、「振動規制法」
水質関連で「下水道法」、「水質汚濁防止法」、「浄化槽法」
その他「食品衛生法」、「消防法」、「工場立地法」、「フロン回収破壊法」

があります。

さらに関連の条例も順守対象となります。

環境関連法規制は時代を反映し、改正が頻繁に実施されるため改正情報の早期の把握が必須となってきます。

当社では年 4 回、関連法規制の最新情報を調査し、順法の定期評価を実施しています。

5 2 期は定期評価の結果、適用法規制全てにおいて規制順守が確認されました。

環境負荷低減商品の開発

総合包装企業である当社は環境に負荷の少ない商品の開発も大きな使命の一つです。

5 2 期は 5 1 期に引き続き、3 点の環境負荷低減商品を開発しました。

5 3 期はこれらの商品が販売に寄与し、環境負荷低減に貢献することが期待されます。

環境教育

当社では従業員を対象とした環境教育にも積極的に取り組んでいます。

隔月発行の社内報には毎回、啓蒙記事を掲載し、従業員の環境への意識向上に努めました。

また、5 1 期の環境報告書にも記載しましたが、「環境包装プロジェクト」主催の勉強会も年 2 回開催しました。

5 2 期は 4 月と 1 1 月の 2 回開催し、多数の従業員が参加しました。

安全衛生

安全衛生への取り組みは本社、栃木工場にそれぞれ安全衛生委員会を組織し、実施しています。

本社、栃木工場とも毎月、安全衛生委員会を開催し、安全衛生に関するテーマに積極的に取り組みました。

5 2 期に取り組んだ主なテーマは

危険予知、ヒヤリハットについての情報収集システムの構築

各職場の定期巡視による安全確認

新型インフルエンザ対応ガイドライン作成検討

緊急時対応マニュアル作成検討

安全衛生についてのスローガン作成検討

等でした。

また、工場作業場での騒音測定、照度測定を実施し、作業環境に問題はないか確認をしました。

さらに応急手当講習会、産業医の講演会、消防訓練を例年通り実施し、従業員の安全衛生に対する知識の向上への活動を引き続き行いました。

今後の取り組み

今、世界規模で地球温暖化防止への対応が緊急課題となっており、我々も子孫に健全な地球を引き継いでいくため、より一層の温暖化防止活動推進の必要性を痛感しています。そのため当社事業活動に伴い発生する温室効果ガスを削減していくことは言うまでもなく、当社、取引先への啓蒙、従業員の家庭における温室効果ガス削減活動等も積極的に実施していきたいと考えております。

また、当社は包装を生業としており、包装をベースとした環境負荷低減活動を引き続き行っていくことが、社会貢献できる一番の方策と考えます。「地球環境保全をベースとした企業活動を行う」という弊社の企業理念実現のため今後ともより積極的な活動を実施していく所存です。

その活動の成果は今後とも引き続き、環境報告書にて広く、外部に公開させていただきたいと考えています。



Life Care and Produce



Life care & Produce



株式会社

カネエ

本社 〒535-0031 大阪市旭区高殿4丁目16番11号
TEL(06)6954-7151(代) FAX(06)6954-7196
東京支店 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目11番5号(月星ビル3F)
TEL(03)5566-4811(代) FAX(03)5566-4817
名古屋営業所 〒462-0843 名古屋市北区田幡2丁目5-12(黒川ターミナルハイツ305)
TEL(052)915-3371(代) FAX(052)915-3373
富山営業所 〒939-8208 富山市布瀬町南2丁目10番地14(ウイズ光陽1-A)
TEL(076)492-8708(代) FAX(076)493-0405

U R L <http://www.kk-kanae.jp>